

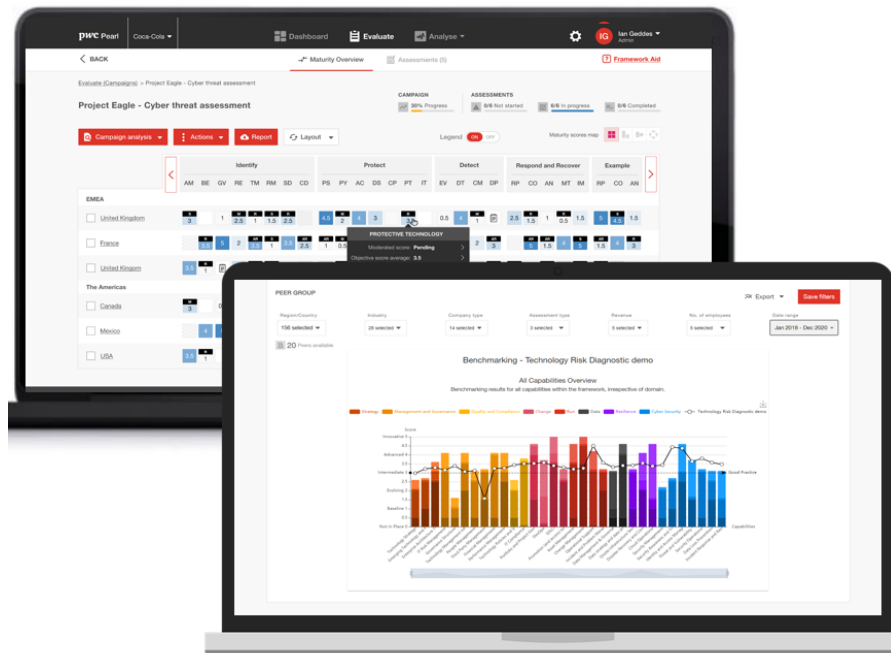
News release

2023年1月12日
PwC あらた有限責任監査法人

PwC あらた、サイバーセキュリティ対策、内部監査など多様なリスクに対する企業の管理態勢の成熟度評価とベンチマークの提供を開始

PwC が開発したプラットフォームを活用し、企業のリスク対応高度化を支援

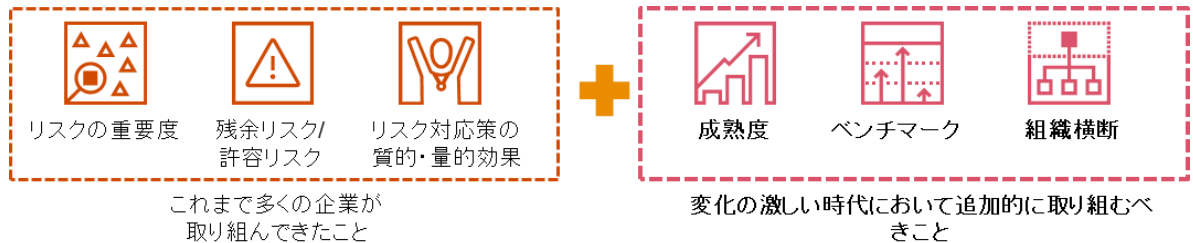
PwC あらた有限責任監査法人(東京都千代田区、代表執行役:井野 貴章)は、1月12日より、PwC が開発したリスク管理に関するベンチマークプラットフォーム「Connected Risk Engine」を活用し、サイバーセキュリティ対策、内部監査など企業を取り巻く多様なリスクに対する管理態勢の成熟度評価と、業界平均値のベンチマークデータの提供を開始します。



Connected Risk Engine 画面イメージ

経済・社会情勢の変化が激しくなるにつれ、企業を取り巻くリスクの種類は増え、形も変え続けています。多くの企業は様々なリスクを踏まえた意思決定やモニタリングを通じて最適な改善策を施せるよう、ガバナンスやリスク管理態勢の再整備に取り組んでいます。ただ、リスクの特定・分析・評価をし、対応すべきリスクを特定できたとしても、何をどこまで対応すればよいのか、すぐに判断できない場合があります。PwC あらたでは、変化の激しい時代において、企業が素早く経営判断を下せるようにするためには、自社のリスク管理の成熟度を適切に評価し、ベンチマークとの比較ができる体制を日ごろから整えることが

重要になると考えています。全てのステークホルダーに説明責任を果たせるよう、全社レベルやグループレベルなど、組織横断的に取り組んでいく必要があると考えています。



新サービスではサイバーセキュリティ対策、内部監査の品質評価対応に関するフレームワークなどの成熟度評価とベンチマーク評価が可能となります。今後、クラウドリスク管理やキャッシュマネジメント、サードパーティー（外部委託先などの第三者）管理、コンダクトリスク管理、IPOの準備状況などその他管理態勢のフレームワークについても順次追加していく予定です。PwC グローバルネットワークが支援している企業のアセスメント結果や、アンケート調査に回答した企業の情報を基に作成したベンチマークと、自社の「現在地」とを比較し、対応・改善すべきリスクを把握できるようになります。継続して活用することで、過年度からの改善箇所を明確にし、次年度に向けた改善計画などに反映しやすくなります。関連企業や国内外の拠点に導入し、どこに改善機会があるかを分析することも可能です。

PwC あらたは PwC グローバルネットワークと連携し、デジタルの力を最大限に活用し、変化の激しい時代における企業のリスク対応高度化を強力に支援してまいります。

以上

PwC あらた有限責任監査法人について

www.pwc.com/jp/assurance

PwC あらた有限責任監査法人は、PwC グローバルネットワークのメンバーファームとしてデジタル社会に信頼を築くリーディングファームとなることをビジョンとしています。世界で長年にわたる監査実績を持つ PwC ネットワークの監査手法と最新技術により世界水準の高品質な監査業務を提供するとともに、その知見を活用した会計、内部統制、ガバナンス、サイバーセキュリティ、規制対応、デジタル化対応、株式公開など幅広い分野に関する助言（ブローダーアシュアランスサービス）を通じて社会の重要な課題解決を支援しています。

PwCについて

www.pwc.com

PwC は、社会における信頼を構築し、重要な課題を解決することを Purpose（存在意義）としています。私たちは、世界152カ国に及ぶグローバルネットワークに約328,000人のスタッフを擁し、高品質な監査、税務、アドバイザリーサービスを提供しています。詳細は www.pwc.com をご覧ください。

© 2023 PricewaterhouseCoopers Aarata LLC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.